令和8年度　学校評価自己評価表　三次市立粟屋小学校

経営目標		短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	自己評価 8月 達成値	自己評価 8月 評価	8月分析	8月改善方策	学校関係者評価を受けて	自己評価 1月 達成値	自己評価 1月 評価	1月分析	1月改善方策	学校関係者評価を受けて
確かな学力	自らの考えを豊かに表現することができる児童を育てる。 【表現力】	教科書の内容を理解し、活用問題も解くことができる。	① 低学年から、基礎基本的な学習内容の定着を確認し、組織的な指導・支援により、確実な理解・定着を図る。 ② 読む活動を意図的に取り入れ、読書活動の充実と文章理解の向上を図る。	単元末テスト（算数科、国語科）で知識及び技能の学校平均の正答率80%以上、思考力・判断力・表現力等の学校平均の正答率70%以上。	【国語】 知・技 101% 思判表 113% 【算数】 知・技 107% 思判表 110%	A A A A	基礎・基本的な事項の定着を目指し、覚えることに力を入れて指導したことで、活用問題を解く力もついてきた。国語科で漢字の小テストや意味調べをさせているが、定着しづらい児童もいるため繰り返し行う必要がある。算数科では、リーダーカードや振り返りの視点を統一し、児童を主体とした指導ができている。	国語科では、読解力を高めるために、音読や読書活動に加え、文章の構造を理解するための図や表を書かせ、長文の読み取りに慣れさせたり、要点をまとめたりする学習を取り入れる。算数科では、得た知識を活用できる力を高めるために、様々な見方・考え方を示したり、複数の資料や図などの情報を関連付けて考えさせたりする。	・各項目において、本校が目指すべき方向性を適切な目標として掲げ、具体的な取組と指標を設定されている。 ・ノート指導の充実に取り組む等、改善策を設定して取り組んでいる。 ・作品応募については、後期にしっかりと取り組んでもらいたい。また、その都度、結果の縦覧が必要と考える。 ・新たな取組として、スマイルの輪の実施等、適切であると考える。自己肯定感が、さらに高まるよう、一人一人の取組に対する評価や支援が丁寧に継続されることを期待する。 ・8の字跳びやマラソンの記録向上が目標ではなく、活動を通じて体力向上を図ることが目標であることを職員・児童で共有してもらいたい。 ・全体として、「学校として意欲的に取り組んでいる」という姿勢が伺える。					
		自分の考えを相手に伝わるように工夫して発表したり、書いたりすることができる。	① ICTの有効的な活用も視野に入れ、かかわり合いながら学ぶ場、自分の考えを伝え合う場を確保し、主体的な学びを深め、表現力を高める。 ② 算数科の研究を中心に「ノート指導の充実」に取り組む。 ③ 成果物出品により自己肯定感を高め、表現することへの自信と意欲を高める。	・発達段階に応じた学びの過程や振り返りをノート等に書いている児童80%以上。 ・成果物を前期・後期それぞれ3点以上作品応募に出品。	【学びの過程】 107% 【振り返り】 95% 【作品応募】 0%	A B D	学びの過程の達成率は85.7%、振り返りは76.1%であった。学びの過程では、授業で習ったポイントを自分なりの方法でまとめたり、考えを文章化することに課題が見られた。振り返りでは、他の人と自分の考えを比較して自分の考えを深めたり、日常生活と繋げたりして振り返ることに課題が見られた。 俳句の作品は、低学年は7月のみだが、中高学年は、4月から毎月作っていた。しかし、俳句の作品がなかなか揃わず7月に1回しか応募できなかった。担当の声掛けができておらず、指導者任せになってしまった。	ノート指導について、2学期初めだけでなく、その都度指導する。特に計算の跡に加え、学びの過程を残すようにさせる。また、担任によるフィードバックだけでなく他学級の教職員にも評価してもらう機会を設ける。振り返りについて、日常生活との関連についての記述も書けるように、身近なもので問題作りをさせたり、体験的な学習を取り入れるなど工夫する。 作品応募について、校内締め切り日を20日と決め、15日に担当が教職員に声掛けをし、そのときに集まった分だけ応募する。					
豊かな心と健やかな体	心と体をきたえ、仲間とともにねばり強くチャレンジする児童を育てる。 【主体性】 【協働力】	自己肯定感・自己回復力を高める。	①教育活動全般において「えがく⇒やってみる⇒ふりかえる」の循環を通して、失敗を成功に生かすことにつなげる。 ②自分の強みを見つけたり、友達の良いところを見つけ伝え合ったりする活動を通して、自己肯定感向上につなげる。 ③指導者による、児童の活動（行動）の価値付けを行い、自己肯定感向上につなげる。	生活アンケートの項目のうち、自己肯定感、自己回復力に係る項目について、肯定的回答を22人中15人以上にする。	【肯定感】 101.4% 【回復力】 111%	A A	強みを見つける取組により、自己肯定感、自己回復力に係る項目について、肯定的回答をした児童は目標を上回った。また、日々の声かけを通して、自分の気持ちを整理したり、困ったときに相談する機会を継続的に設けたことが、自己回復力の向上につながったと考えられる。しかし、自己肯定感を問う質問に対しては、5問中3問が目標を達成できなかった。	目標を達成できなかった項目（「自分のことが好き」「自分の強みを知っている」「得意なことがある」）についての働きかけが必要である。学級でいいところ見つけや児童会を中心にスマイルの輪を継続したり、道徳などの授業と関連させたりすることで児童自身が自分の良さ（強み）に気づくことができる取組をしていく。					
		基本的生活習慣の確立と体力向上を図る。	① 児童の運動への意欲向上につながる体育科授業改善や体育的行事（マラソン大会）、全校での体力つくりの取組（8の字跳び）を計画的・継続的に行い、体力向上を図る。	8の字跳びについて ・前期（7月） 4月の記録に対する1.5倍 ・後期（12月） 7月の記録に対する1.2倍	【低学年】 202.6% 【中学年】 126.6% 【高学年】 96%	A A B	マラソンや8の字跳びを計画的に継続して行うことができた。8の字跳びでは、低・中学年は目標を上回り、継続した取組の成果が見られた。練習を重ねることで技能は向上したが、回数を重ねるにつれて記録の伸びが緩やかになる傾向であった。	今後も引き続きなわとび交流会を行い、自他の良さを認め合う場を作る。また、ICT（動画分析）を活用し、自己・相互評価を行うとともに、技能の向上に努め、体力向上につなげる。 12月の目標のみでは児童が見通しをもちにくいため、各学級で月ごとの目標を設定し、スモールステップで達成感を積み重ねながら取組を進める。					
信頼される学校	児童・保護者・地域から信頼される学校経営を行う。	職場の心理的安全性を高める。	①情報共有を常とし、組織的対応を図る。 ②学校教育活動全般における提案や取組に対して、見直す視点を持つ。	教職員アンケートにおいて、肯定的評価80%以上にする。	113%	A	・教職員アンケートの肯定的評価は90%であった。 ・肯定的評価をした職員は多かったが、一部否定的評価も見られた。	・週に1回の定期的な情報共有を継続する。また、当日すぐの対応を行っていく。 ・学校教育目標の達成に向けて様々な意見を出しやすい職場づくりを一人一人が意識していく。					
		児童が安心・安全に生活できる学校環境の維持、向上を図る。	①ホームページや通信等で学校の取組を定期的に発信するとともに、細やかな家庭連携を行う。	児童の肯定的評価90%以上にする。	111%	A	・児童の肯定的評価は100%であった。学校が楽しい要因は、「友達と過ごすこと」という回答が多く見られた。 ・ホームページでの情報発信は定着してきている。	・引き続き、児童同士のかかわりがもてる活動を仕組んだり、児童の話をしっかり聞く機会を設けたりする。 ・ホームページに加え、学級通信を通して、学校・学級の取組、児童の様子を発信していく。					

評価／　A＝100%以上　　B＝75%以上100%未満　　C＝50%以上75%未満　　D＝50%未満